資治通鑑 第171巻

【陳紀五】　起玄黓執徐，盡閼逢敦，凡三年。

■陳、●北周、北齊北齊、続国訳漢文大成 経子史部 第10巻 087p

高宗宣皇帝上之下太建四年（壬辰，５７２年）

■**春，正月**，丙午（42-40+1=３日），尚書僕射の**徐陵**を以て左僕射と為し，中書監の**王勱**を右僕射と為す。

北齊己巳（5+60-40+1=１６日），**齊主**は南郊に祀る。

■庚午（6+60-40+1=２７日），**上**は太廟に享す。

北齊辛未（7+60-40+1=２８日），**齊主**は琅邪王の**儼**（前巻前年に誅殺）に贈りて楚の**恭哀帝**と為し以て**太后**の心を慰め，又た**儼**の妃の**李氏**を以て**楚帝后**と為す。

●突厥 北齊［周は突厥・北齊に聘す］**二月**，癸酉（9-9+1=１日），周は大將軍の昌城公の**深**を遣わして突厥に聘せしめ，司賓（周の制に倣う、大行人）の**李除**、小賓部（小行人）の**賀遂禮**をして齊に聘せしむ。**深**は，**護**之子也。

北齊己卯（15-9+1=７日），齊は**衛菩薩**（北齊書・北史に同様にあり、不明）を以て太尉と為す。**（10-088p）**辛巳（17-9+1=９日），並省（元魏が諸道の行台を置いてより、各々令僕尚書等の官を置く。齊の神武帝は爾朱兆を破り晉陽を得、大丞相府を建てて之に居る。文宣帝は禪譲を受けて遂に尚書省を置く）の吏部尚書の**高元海**を以て尚書左僕射と為す。

■乙酉（己酉×、21-9+1=１３日），皇子の**叔卿**を封じて建安王と為す。

北齊［祖珽は陸令萱と実権掌握］庚寅（26-9+1=１８日），齊は尚書左僕射の**唐邕**を以て尚書令と為し，侍中の**祖珽**を左僕射と為す。初め，**胡太后**は既に北宮に幽せられ（前巻前年にあり），**珽**は**陸令萱**を以て**太后**と為さんと欲し，**令萱**の為に魏の**保太后**の故事（120巻宋の文帝元嘉二年にあり）を言う。且つ人に謂って曰く、「**陸**は婦人と雖も，然るに實に雄傑なり。女媧より以來，未だ之れ有らざる也。」

令萱も亦た**珽**に謂って「國師」、「國寶」と為し，是に由りて僕射を得たり。**三月**，癸卯（39-39+1=１日）朔，日之を食する有り。

【雌伏の周主は宇文護を誅殺】

●［宇文護の屯兵侍衛は，宮闕より盛ん］初め，周の**太祖**は魏の相と為り，左右十二軍を立て（163巻梁の簡文帝大寶元年にあり。敬帝太平元年に周の太祖は殂す。十二軍は宇文護の処分を受けることこの年に始まる。世祖の天嘉元年に宇文護は政を周の世宗に還す。武成元年に宇文護は猶わ軍旅を総べる。次の年に宇文護は世宗を弑逆して高祖を建て、保定と改元し、政は悉く宇文護に帰す。事は166巻より168巻にあり），總て相府に屬す。**太祖**は殂し，皆な晉公の**護**の處分を受け，凡そ征發する所は，**護**の書に非ざれば行なわれず。**護**の第の屯兵侍衛は，宮闕より盛んなり。諸子、僚屬は皆な貪殘恣横にして，士民は之を患う。**周主**は深く自ら晦匿し，關預する所無し，人は其の淺深を測らず。

●［庾季才は宇文護に引退を勧める］**護**は稍伯大夫（北周の稍伯は蓋し周官の稍人の職。周官の稍人は県帥と為り、都鄙丘甸の政を令するを掌る。王城を距てること三百里を稍という。北周の地官の屬に、方毎に稍伯中大夫有り。又遂毎に小稍伯大夫有り）の**庾季才**（天文の明あり）に問いて曰く、

「比日（このごろ）天道は何如？」

季才は對えて曰く、

「恩を荷なうこと深厚なり，敢えて言を盡くさざらんや？頃（このごろ）上台（三台六星は兩兩にして居り、文昌に起こり、招

揺に列す。三公の位なり。文昌に近き二星を上台という）は變有り，公は宜しく政を**天子**に歸し，老を私門に請うべし。此くすれば則ち期頤之壽（曲禮に百年を期頤という。期は猶ほ要のごとし、頤は養なり）を享け，旦（周公）、奭（召公）之美を受け，子孫は常に籓屏と為らん。然らざれば，復た知る所に非ず。」

護は沉吟すること之久しく，曰く、

「吾が本志は此くの如し，但だ辭するとも未だ免かるるを獲ざる耳。公は既に王官なり，朝例に依る可し，別に寡人に參するを煩わす無かれ也。」

是より之を疏んず。

●［宇文直は帝に宇文護排除を勧める］衛公の**直**は，**帝**之母の弟也，**護**に深暱す。沌口之敗（前巻臨海王光大二年にあり）に及び，坐して免官され，是に由りて**護**を怨み，**帝**に之を誅するを勸め，其の位を得るを冀う。**帝**は乃ち密に**直**及び右宮伯（周官、王宮の宿衛次舎の職事を掌る）中大夫の**宇文神舉**、内史（爵祿廃置殺生予奪の法を掌り、諸侯が孤卿大夫を命じるときは之を策命す。凡そ四方の事書は内史が読むむ。北周は其の意を彷彿して官を置く）下大夫の太原王の**軌**、右侍（北周は左右宮伯を置き侍衛の禁を掌り、各々内に更直す。小宮伯は之に貳す。中侍は御寝の禁を掌り、左右侍は中侍の後に倍す）上士の**宇文孝伯**と之を謀る。**神舉**は，**顯和**之子、**孝伯**は，安化公（爵を書して宇文護の子の深に別つ。安化は甘粛省涇原道慶陽県、現・慶陽市慶陽県）の**深**之子也。

●［帝は宇文護を謀殺］**帝**は禁中に於いて**護**を見る毎に，常に家人の禮を行い，**太后**は**護**に坐を賜り，**帝**は立ちて旁に侍る。丙辰（52-39+1=１４日），**護**は同州より長安に還り，**帝**は文安殿に御して之を見る（10-089p）。因りて**護**を引いて含仁殿に入り**太后**に謁し，且つ之に謂って曰く、

「**太后**は春秋高く，頗る飲酒を好み，屢々諫めると雖も，未だ垂納を蒙らず。兄は今入朝す，願わくは更に啟請せよ。」

因りて懐中より《酒誥》を出して之を授け，曰く、

「此を以て**太后**を諫めよ。」

護は既に入り，**帝**の戒める所の如く《酒誥》（周の成王が作った酒の戒め）を讀む。未だ畢わらず，**帝**は玉斑（玉の笏、長さ三尺）を以て後ろより之を撃ち，**護**は地に踣（たお）れる。**帝**は宦者の**何泉**をして御刀を以て之を斫ら令め，**泉**は惶懼し，斫りて傷つける能わず。衛公の**直**は戸内に匿れ，躍り出でて，之を斬る。時に**神舉**等は皆な外に在り，更に知る者無し。

●［宇文護一党を誅殺］**帝**は宮伯の**長孫覽**等を召し，告げるに**護**の已に誅せらるを以てし，**護**の子の柱國の譚公の**會**、大將軍の**莒公至**、崇業公（郡公）の**靜**、正平公（郡公）の**乾嘉**及び其の弟の**乾基**、**乾光**、**乾蔚**、**乾祖**、**乾威**並びに柱國の北地の**侯龍恩**、**龍恩**の弟の大將軍の**萬壽**、大將軍の**劉勇**、中外府司錄（宇文護は中外を都督し府に司錄あり）の**尹公正**、**袁傑**、膳部下大夫の**李安**等を収めて，殿中に於いて之を殺さ令む。**覽**は，**稚**（正光・永安に功名あり）之孫也。

●［侯龍恩兄弟は死し、子孫は免除］初め，**護**は既に**趙貴**等を殺し（167巻高祖永定元年にあり），諸將は多く自ら安ぜず。**侯龍恩**は**護**の親する所と為り，其の從弟の開府儀同三司の**植**は**龍恩**に謂って曰く、

「**主上**は春秋既に富み（年を経て成長す），安危は數公に繫かる。若し誅戮する所多く以て自ら威權を立てれば，豈に唯だ社稷は累卵之危きに有りのみならん，恐らくは吾が宗も亦た此に緣り而して敗れん，兄は安んぞ知り而して言わざるを得ん！」

龍恩は從う能わず。**植**も又た間を承け、**護**に言って曰く、

「公は骨肉之親を以て，社稷之寄に當たる，願わくは誠を王室に推し，跡を**伊**、**周**に擬せ，則ち率土幸甚ならん！」

護は曰く、
「我は誓いて身を以て國に報じん，卿は豈に吾に他志有りと謂う邪！」
又た其の先に**龍恩**と言うを聞き，陰に之を忌み，**植**は憂いを以て卒す。**護**の敗れるに及び，**龍恩**兄弟は皆な死し，**高祖**は**植**を以て忠と為し，特に其の子孫を免ず。
●［齊公憲は主相の嫌隙を慮り、助命］大司馬兼小塚宰、雍州牧の齊公の**憲**は，素より**護**の親任する所と為り，賞罰之際は，皆な參預するを得，權勢は頗る盛んなり。**護**は陳べる所有らんと欲すれば，多く**憲**をして聞奏せ令め，其の間或は可不有り，**憲**は主相の嫌隙せんを慮り，毎に曲げ而して之を暢(の)べる，**帝**も亦た其の心を察す。**護**の死するに及び，**憲**を召して入り，**憲**は冠を免いで拜謝す。**帝**は之を慰勉し，**護**の第に詣りて兵符及び諸々の文籍を収め使む。衛公の**直**は素より**憲**を忌み，固く之を誅するを請い，**帝**は許さず。
●［護の世子訓は死を賜る］**護**の世子の**訓**は蒲州（西南に同州まで 130 里、さらに西南に長安まで 225 里）刺史為り，是の夜，**帝**は柱國の越公の**盛**を遣わして傳に乗り訓を征せしめ，同州に至らしめ，死を賜う。昌城公の**深**は突厥に使いして未だ還らず，開府儀同三司の**宇文德**を遣わして璽書を繼(もた)らし就きて之を殺さしむ。**護**の長史の代郡の**叱羅協**、司錄の弘農の**馮遷**及び親任（新任×）する所の者は，皆な除名される。
●［宇文孝伯は帝の執政に参与］丁巳（53-39+1=１５日），大赦し，改元（建德）す。**宇文孝伯**を以て車騎大將軍と為し，**王軌**と並びて開府儀同三司を加える。初め，**孝伯**は**帝**と同日に生まれ，**太祖**は之を愛し，第中に於いて養い，幼くして**帝**と同じく學ぶ。即位に及び，**(10-090p)**引いて左右に致さんと欲し，託言す、
「**孝伯**と舊經を講習せんと欲す〕
と，故に**護**は之を疑わざる也，以て右侍上士と為し，臥内に出入し，機務を預り聞く。**孝伯**の為人と為りは，沉正にして忠諒なり。朝政の得失，外間の細事は，**帝**をして之を聞か使めざるは無し。
●［庾季才を厚遇］**帝**は**護**の書記を閲し，符命に假托して妄りに異謀を造る者有り，皆な坐して誅せらる。唯だ**庾季才**の書兩紙を得，盛んに緯候（緯は七緯即ち日月五星の運行をいう、行を失う時は災難、候は月令七十二候をいう）の災祥を言い，
「宜しく政を返し權を歸すべし」
という。**帝**は**季才**に粟三百石，帛二百段を賜り，太中大夫に遷す。
●［北周の新体制］癸亥（59-39+1=２１日），**尉遲迥**を以て太師と為し，柱國の**竇熾**を太傅と為し，**李穆**を太保と為し，齊公の**憲**を大塚宰と為し，衛公の**直**を大司徒と為し，**陸通**を大司馬と為し，柱國の**辛威**を大司寇と為し，趙公の**招**を大司空と為す。
●［齊公の憲の待遇］時に**帝**は始めて親ら朝政を覽，頗る威刑を事とし，骨肉と雖も寛借する所無し。齊公の**憲**は塚宰に遷ると雖も，實は之の權を奪う。又た**憲**の侍讀（北周の諸王にあり）の**裴文擧**に謂って曰く、「昔魏の末には綱あらず（人君は大綱を操持する能わず、衆目紊乱するを致す），**太祖**は輔政す。周室の命を受けるに及び，**晉公**は復た大權を執る。積習は常に生じ，愚者は謂えらく法は應に是くの如しと。豈に年三十の**天子**而して人の制する所と為る可き有らん乎！《詩》（大雅丞民の篇）に云わく、『夙夜懈らず，以て一人に事える。』一人は，**天子**を謂う耳。卿は齊公に陪侍し，遽に同じく臣と為るを得ざると雖も，事える所に死せんと欲せば。宜しく輔けるに正道を以てし，勸めるに義方を以てし，我が君臣を輯睦し，我が兄弟を協和し，自ら嫌疑を致さ令むる勿かれ。」
文擧は鹹な以て**憲**に白し，**憲**は心を指さし幾（机）を撫して曰く、

「吾之夙心は，公は寧ぞ知らずや！但だ當に忠を盡くし節を竭くす耳，知る復た何をか言わん！」

●［帝は衛公直を大司徒と為す］衛公の**直**は，性は浮詭貪狠なり，意は大塚宰を望む。既に得ず，殊だ怏怏とす。更に大司馬と為るを請い，兵權に據らんと欲す。**帝**は其の意を揣知（推し量る）して，曰く、

「汝の兄弟は長幼に序有り，豈に返って下列に居る可けんや！」

是に由りて用って大司徒と為す。

●北齊**夏，四月**，周は工部（周の制度では工部は中大夫、冬官に属し五命）の**成公建**、小禮部（禮部は春官に属し中大夫、五命。小禮は上士、三命）の**辛彥之**を遣わして齊に聘さしむ。

●庚寅（26-8+1=１９日），周は略陽公（廃する事 167 巻高祖永定元年にあり）を追尊して**孝閔皇帝**と為す。

●癸巳（29-8+1=２２日），周は皇子の魯公の**贇**を立てて**太子**と為し，大赦す。

■**五月**，癸卯（39-38+1=２日），**王勱**は卒す。

【祖珽は斛律光を誅殺させる】

北齊［斛律光と祖珽の対立］齊の尚書右僕射の**祖珽**は，勢いは朝野を傾く。左丞相の咸陽王の**斛律光**は之を惡み，遙かに見，輒ち罵りて曰く、

「事を多くする乞索（求め取る）の小人なり（小人求め取りて厭きる無く、国家の多事を致す），何の計を行なわんと欲するや！」

又た嘗て諸將に謂って曰く、

「邊境の消息（続は欠如），兵馬の處分，**趙令**（尚書令の趙彦深）は恆に吾が輩と參論す。盲人（祖珽は盲を病む、前巻臨海王光大元年に始まる）が機密を掌りて以來，全く吾が輩と語らず，正に國家の事を誤まるを恐るる耳。」（10-091p）

光は嘗て朝堂に在りて簾を垂れて坐す。**珽**は知らず，乘馬は其の前を過ぎ，**光**は怒りて曰く、

「小人は乃ち敢えて爾り！」

後に**珽**は內省に在り，言聲は高慢なり，**光**は適々過ぎ，之を聞き，又た怒る。**珽**は之を覺り，私に**光**の從奴に賂して之を問い，奴は曰く、

「公が事を用いるより，相王は每夜膝を抱きて歎じて曰く、『盲人入る，國は必ず破れん矣！』」

穆提婆は**光**の庶女を娶らんと求め，許さず。**齊主**は**提婆**に晉陽の田を賜い，**光**は朝に言って曰く、

「此の田は，**神武帝**以來常に禾を種え，馬數千匹を飼い，以て寇敵に擬す。今**提婆**に賜わり，乃ち軍務を闕く無からん也。」

是に由りて**祖**、**穆**は皆な之を怨む。

北齊［斛律后に寵無し、一族精強］**斛律后**は寵無く，**珽**は因り而して之を間（離間）す。**光**の弟の**羨**は，都督、幽州刺史、行台尚書令と為り，亦た善く兵を治め，士馬は精強，鄚候嚴整にして，突厥は之を畏れ，之を謂う「南可汗」と。**光**の長子の**武都**は，開府儀同三司，梁、兗二州刺史と為る。

北齊●［斛律光は軍人一筋、周は謠言す］**光**は貴は人臣を極めると雖も，性は節儉にして，聲色を好まず，賓客に接すること罕なり，饋餉を杜絕し，權勢を貪らず。朝廷の會議每に，常に獨り後に言い，言えば輒ち理に合う。或は表疏する有れば，人をして執筆せ令め，之を口佔し，務めて省實（語省きて事実なり）に從う。行兵は其の父の**金**之法に仿い，營舍は未だ定まざれば，終に幕に入らず。或は竟日（終日）坐せず，身は介冑を脫せず，常に士卒の先と為る。士卒に罪有れば，唯だ大杖をもて背を撾つのみ，未だ嘗て妄りに殺さず，衆は皆な爭いて之が為に死す。結髮より從軍し、未だ嘗て敗北せず，深く鄰敵の憚る所と為る。

周の勳州（高歡と宇文泰は兵争う。泰は韋孝寬をして玉壁を守らしめ、歡は力を尽くして攻める。克たずして帰り遂に死す。宇文氏は勲州を立て功を旌す。山西省河東道稷山県、現・運城市稷山県）刺史の**韋孝寬**は密に謠言を為(つく)りて曰く
「百升飛んで天に上り，明月（斛律光の字）長安を照らす。」
又た曰く、
「高山は推さずして自ら崩れ，槲木（柏）は扶けずして自ら舉がる。」
諜人をして之を鄴に傳え令め，鄴中の小兒は之を路に歌う。**斑**は因りて之を續けて曰く、
「盲老公は背に大斧を受け，饒舌の老母は語るを得ず。」
其の妻の兄の**鄭道蓋**をして之を奏せ使む。**帝**は以て**斑**に問い，**斑**は**陸令萱**と皆な曰く、
「實に之有りを聞く。」
斑は因りて之を解いて曰く、
「百升者，**斛**也。盲老公は，臣を謂う也，國と憂いを同じくす。饒舌の老母は，女侍中の**陸氏**を謂うに似たる也。且つ**斛律**は累世の大將，**明月**の聲は關西に震い，豐樂（斛律羨の字）の威は突厥に行なわれ，女は**皇后**と為り，男は**公主**に尚す。謠言は甚だ畏る可き也。」
帝は以て**韓長鸞**に問い，**長鸞**は以て不可と為し，事は遂に寢ねる。
北齊［祖斑の斛律光を召す謀略］**斑**は又た**帝**に見え，間を請い，唯だ**何洪珍**は側に在り。**帝**は曰く、
「前に公の啟を得，即ち施行せんと欲す，**長鸞**は以為く此の理無しと。」
斑は未だ對えず，**洪珍**は進みて曰く、
「若し本より意無ければ則ち可なり。既に此の意有り而して決行せず，萬一洩露すれば，如何？」
帝は曰く、
「**洪珍**の言は是也。」
然るに猶ほ未だ決せず。會々丞相府の佐の**封士讓**は密に啟して云う、
「**光**は前に西討して還り（前巻三年にあり、斑が仕掛け），敕して散兵せ令め，**光**は兵を引いて**帝**の城に逼り，將に不軌を行なわんとす，事は果たさず而して止む。(10-092p) 家に弩甲を藏し，奴僮は千數あり，毎に遣使して**豐樂**、**武都**の所に往き，陰謀は往來す。若し早く圖らざれば，恐らくは事は測る可からず。」
帝は遂に之を信じ，**何洪珍**に謂って曰く、
「人心も亦た大いに靈なり，我は前に其の反せんと欲するを疑い，果たして然り。」
帝の性は怯なり，即ち變有るを恐れ，**洪珍**をして馳せて**祖斑**を召して之を告げ令む。
「**光**を召さんと欲す，其の命に從わざるを恐れる。」
斑は請う、
「遣使して賜わるに駿馬を以てし，語りて云う、『明日は將に東山に游ばん，王は此に乘りて同行する可し。』**光**は必す入りて謝さん，因り而して之を執らん。」
帝は其の言の如くす。
北齊［劉桃枝は斛律光を弑逆］**六月**，戊辰（4-7+1=?、五月では），**光**は入り，涼風堂に至り，**劉桃枝**は後より之を撲ち，仆(たお)（僕×）れず，顧みて曰く、
「**桃枝**は常に此くの如き事を為す（文宣帝以来劉桃枝が殺害に絡む）。我は國家に負かず。」
桃枝は三力士と弓弦を以て其の頸を胃(けん)し，拉し而して之を殺す。血は地に流れ，之を剨(けず)れども，跡は終に滅せず。是に於いて下詔して其の謀反と稱し，並せて其の子の開府儀同三司（從一品）の**世雄**、儀同三司（第二品）の**恆伽**を殺す。

北齊［斛律一族の誅殺］**祖珽**は二千石郎（讞外の得失などの事を掌る）の**邢祖信**をして**光**の家を簿錄せ使む。**珽**は都省（尚書省）に於いて得る所の物を問い，**祖信**は曰く、

「弓十五，宴射箭百，刀七，賜槊二（続による）を得たり。」（武器を私蔵せずの意味）

珽は聲を厲まして曰く、

「更に何物を得るや？」

曰く、

「橐（堅く密なり）杖二十束を得たり，奴僕の人と斗う者は，曲直を問わず，即ち之を杖つに一百に擬す。」

珽は大いに慚じ，乃ち聲を下して曰く、

「朝廷は已に重刑を加える，郎中は何ぞ宜しく為に雪ぐべけんや！」

及ち出で，人は其の抗直を尤（とが）め，**祖信**は慨然として曰く、

「賢宰相すら尚ほ死す，我は何ぞ餘生を惜しまんや！」

齊主は遣使して就州に就きて**斛律武都**を斬らしめ，又た中領軍の**賀拔伏恩**を遣わして驛に乗りて**斛律羨**を捕え，仍って洛州行台の僕射の中山の**獨孤永業**を以て**羨**に代らしめ，大將軍の**鮮于桃枝**と定州の騎卒を發して續ぎて進ましむ。**伏恩**等は幽州に至り，門者は白す、

「使人は衷甲し，馬は汗有り，宜しく城門を閉じるべし。」

羨は曰く、

「敕使は豈に疑い拒む可けんや！」

出でて之を見る。**伏恩**は執り而して之を殺す。初め，**羨**は常に盛滿を以て懼れと為し，表して職とする所を解かんとし，許さず。刑に臨み，歎じて曰く、

「富貴は此くの如し，女は**皇后**と為り，**公主**は家に滿ち，常に三百の兵を使い，何ぞ敗れざるを得ん！」

及び其の五子の**伏護**、**世達**、**世遷**、**世辨**、**世酋**は皆な死す。

●**周主**は**光**の死を聞き，之が為に大赦す。（揺言の策略成功で大赦）

北齊［祖珽は高元海を鄭州刺史に出す］**祖珽**は侍中の**高元海**と共に齊の政を執る。**元海**の妻は，**陸令萱**之甥也，**元海**は數々**令萱**の密語を以て**珽**に告げる。**珽**は領軍と為るを求め，**齊主**は之を許し，**元海**は密に**帝**に言って曰く、

「**孝征**（続は孝徴、祖珽の字）は漢人なり，兩目は又た盲す，豈に領軍と為す可けんや！」

因りて言う、

「**珽**は廣寧王の**孝珩**（文襄の故、齊主の忌む所）と交結す」

と，**(10-093p)**是に由り中止す。**珽**は見えんと求め，自ら辨じ，且つ言う、

「臣は**元海**と素より嫌あり，必ず**元海**は臣を譖せん。」

帝は弱顔（人を見れば自ら羞じ、顔は忸怩たる者有り）にして，諱む能わず，實を以て之に次ぎ，**珽**は因りて言う、

「**元海**は司農卿の**尹子華**等と結びて朋黨と為す。」

又た**元海**が洩らす所の密語を以て**令萱**に告げ，**令萱**は怒り，**元海**を出して鄭州（天平の初め、潁州を置き、長社城に治す。武定七年に鄭州と改め、潁陰城に治す。周は齊を滅ぼし改めて許州といい、滎陽に鄭州を置く。潁陰城は河南省開封道許昌県、現・許昌市魏都区、滎陽は開封道滎陽県、現・鄭州市滎陽市）刺史と為す。**子華**等は皆な黜（しりぞ）けられる。

北齊［祖珽の專政］**珽**は是より專ら機衡（尚書の職は機衡を主り、任は選考に関わる）を主（つかさど）り，騎兵、外兵（北齊の制には尚書郎に中兵・外兵有り、各々左右に分ける。左外兵は河南及び潼関以東の諸州を掌り、右外兵は河北及び潼関以西の諸州の下帳及び発召・征兵等の事を掌る）の事を總知し，內外の親戚は，皆な顯位を得る。**帝**は常に中要人（宦官の親要なる

者）をして扶侍して出入りせ令めば，直ちに永巷に至り，毎に御榻を同じくして政事を論決し，委任之重きは，群臣比べる莫し。

■●**秋，七月**，遣使して周に如かしむ。

北齊［皇后の斛律氏の廃止］**八月**，庚午（6-6+1=１日），齊は**皇后**の**斛律氏**（斛律光既に死す）を廃して庶人と為し。任城王の**湝**を以て右丞相と為し，馮翊王の**潤**を太尉と為し，蘭陵王の**長恭**を大司馬と為し，廣寧王の**孝珩**を大將軍と為し，安德王の**延宗**を大司徒と為す。

北齊●齊は領軍の**封輔相**をして周に聘せ使む。

●■［周と陳の合従論］辛未（7-6+1=２日），周は司城（宋は武公の名を以て司空を改めて司城と為す、侯国の卿なり。北周は成周の遺制に倣う、必ず諸侯の卿を以て官に名づけざらん。蓋し周官の掌固の職に彷彿たるならん）中大夫の**杜杲**をして來聘せ使む。**上**は之を謂って曰く、

「若し合從して齊を圖らんと欲せば，宜しく樊、鄧を以て與えられるべし。」

對えて曰く、

「合從して齊を圖るは，豈に弊邑之利ならんや！必ず城鎮を須いば，宜しく之を齊に得るを待つべし，先ず漢南を索めるは，使臣は敢えて命を聞かず。」

【陸令萱は齊の後宮を牛耳る】

北齊［胡太后と陸令萱の策略］初め，齊の**胡太后**は自ら失德（事現わること前年前巻に見える）を愧じ，悦を**齊主**に求めんと欲し，乃ち其の兄の**長仁**之女を飾り宮中に置き，**帝**をして之を見令む。**帝**は果たして悦び，納れて昭儀（北魏以来、詔義は皇后に次、位は大司馬に視う）と為す。**斛律后**の廢せられるに及（続は又）び，**陸令萱**は**穆夫人**を立てんと欲す。**太后**は**胡昭儀**を立てんと欲し，力は遂げる能わず，乃ち辭を卑くし禮を厚くし以て**令萱**に求め，結んで姊妹と為る。**令萱**も亦た**胡昭儀**の寵幸方に隆んなるを以て，已むを得ず，**祖珽**と**帝**に白して之を立つ。戊子（24-6+1=１９日），**皇后**の**胡氏**を立つ。

北齊己丑（25-6+1=２０日），齊は北平王の**仁堅**を以て尚書令と為し，特進の**許季良**は左僕射と為し，彭城王の**寶德**を右僕射と為す。

北齊癸巳（29-6+1=２４日），**齊主**は晉陽に如く。

■**九月**，庚子（36-36+1=１日）朔，日之を食する有り。

■辛亥（47-36+1=１２日），大赦す。（10-094p）

●［周の俘虜奴隷解放］**冬，十月**，庚午（6-5+1=２日），周は詔す、

「江陵にて虜する所の官口に充てる者は，悉く免じて民と為す。」（梁の元帝承聖三年に江陵破れ、士民は皆魏に虜にせられ、関に入る）

●辛未（7-5+1=３日），周は小匠師（大司祭の屬官）の**楊勰**等を遣わして來聘せしむ。周の綏德公（県公なり。西魏は綏州の上県に於いて綏德県を置く）の**陸通**は卒す。

■乙酉（21-5+1=１７日），**上**は太廟に享す。

北齊［陸令萱は胡后に厭蠱之術で恍惚］齊の**陸令萱**は**穆昭儀**を立てて**皇后**と為さんと欲し，毎に私（ひそか）に**齊主**に謂って曰く、

「豈に男は**皇太子**為（た）るに，而して身婢妾為（た）る者有らん乎！」

胡后は**帝**に寵有り，離間す可からず。**令萱**は乃ち人をして厭蠱（虫の呪力でのろう）之術を行なわ使む，旬朔之間に，**胡后**の精神は恍惚とし，言笑恆無し，**帝**は漸く畏れ而して之を惡む。**令萱**は一旦忽（たちま）ち**皇后**の服

御衣を以て**穆昭儀**に被せ，又た別に寶帳を造り，爰(ここ)に枕席器玩に及ぶまで，珍奇に非ざる莫し。**昭儀**を帳中に於いて坐せしめ，**帝**に謂って曰く、

「一聖女の出ずる有り，大家を將いて之を看ん。」

昭儀を見るに及び，**令萱**は乃ち曰く、

「此の如きの人は**皇后**と作さざれば，遣わすに（続は欠）何物の人をか作らしめん！」

帝は其の言を納れる。

北齊甲午（30-5+1=２６日），**穆氏**を立てて**右皇后**と為し，**胡氏**を以て**左皇后**と為す。

●［周は東西の諸侯に頒賜］**十一月**，庚戌（46-35+1=１２日），**周主**は行きて羌橋（長安の東、苻・姚の諸羌を以て名づける）に如き，長安以東の諸軍都督以上を集め，頒賜すること差有り。乙卯（51-35+1=１７日），宮に還る。趙公の**招**を以て大司馬と為す。壬申（8+60-35+1=３３日?、十二月なら 8-4+1=5 日），**周主**は斜谷に如き，長安以西の諸軍都督以上を集め，頒賜して差有り。丙戌（22-4+1=１９日），宮に還る。

●庚寅（26-4+1=２３日），**周主**は道會苑に游び，上善殿の壯麗なるを以て，之を焚く。

●**十二月**，辛巳（17-5+1=１３日、ここの暦は戻る），**周主**は南郊に祀る。

北齊［陸令萱は胡后を追放］齊の**胡后**之立つや，**陸令萱**の意に非ず，**令萱**は一旦**太后**の前に於いて色を作し而して言って曰く、

「何物の親侄ぞ，此くの語の如きを作すや！」

太后は其の故を問い，**令萱**は曰く、

「道(い)う可からず。」

固く之を問い，乃ち曰く、

「大家に語りて云う、『**太后**の行いは多く非法なり，以て訓える可からず。』と」

太后は大いに怒り，**后**を呼びて出でしめ，立ちどころに其の發を剃り，送りて家に還らしむ。辛丑（**元嘉暦閏十二月** 37-34+1=４日），**胡后**を廢して庶人と為す。然るに**齊主**は猶ほ之を思い，毎に物を致して以て意を通ず。

北齊［陸令萱は後宮内外を指麾］是より**令萱**は其の子の侍中の**穆提婆**と勢いは内外を傾け，官を賣り獄を鬻(ひさ)ぎ，聚斂すること厭く無し。一たび賜與する毎に，動(やや)もすれば府藏を傾ける。**令萱**は則ち**太后**より以下，皆な其の指麾を受ける。**提婆**は則ち**唐邕**之徒なり，皆な足を重ね氣を屏(おさ)める。殺生與奪は，唯だ意の欲する所のままなり。

●乙巳（41-34+1=８日），周は柱國の**田弘**を以て大司空と為す。

●乙卯（51-35+1=１７日），**周主**は太廟に享す。

突厥［周の突厥対策］是の歲，突厥の**木桿可汗**は卒す，復た其の子の**大邏便**を捨て而して其の弟を立て（梁の世祖の承聖二年に突厥の土門可汗卒す。其の子の攝圖を捨てて其の弟の俟斗称を立て木桿可汗と為す。褥但は佗鉢の弟、蓋し小可汗なり），是れ**佗鉢可汗**と為す。**(10-095p) 佗鉢**は**攝圖**を以て**爾伏可汗**と為し，其の東面を統べしめる。又た其の弟の**褥但可汗**之子を以て**步離可汗**と為し，西面に居らしむ。周人は之と和親し，歲ごとに繒絮錦彩十萬段を給す。突厥の長安に在る者は，錦を衣て肉を食らい，常に千を以て數える。齊人も亦た其の寇を為さんと畏れ，爭いて厚く之に賂(まいな)う。**佗鉢**は益々驕り，其の下に謂って曰く、

「但だ我が在南の兩兒（周と齊）をして常に孝なら使めば，何ぞ貧するを憂えん！」

阿史那后は**周主**に寵無く，神武公（郡公、拓跋儀は神武郡を光山に置く）の**寶毅**は**襄陽公主**に尚し，女（後に李淵に

適く、唐の高祖の竇皇后）を生み尚ほ幼なり，密に**帝**に言って曰く、
「今齊、陳の鼎峙し，突厥は方に強し，願わくは舅は情を抑えて慰撫し，生民を以て念と為さんことを！」
帝は深く之を納れる。

高宗宣皇帝上之下太建五年（癸巳，５７３年）

■**春，正月**，癸酉（9-4+1=６日），吏部尚書の**沈君理**（525-573 本貫は呉興郡武康県）を以て右僕射と為す。
北齊［齊の三貴の弊害］戊寅（14-4+1=１１日），齊は並省尚書令の**高阿那肱**を以て尚書事を錄し，外兵及び内省の機密を總知せしめ，侍中の城陽王の**穆提婆**、領軍大將軍の昌黎王の**韓長鸞**と共に衡軸（車軌を衡といい、輪を持するを軸といい、両者なければ進まず、の譬え）に處り，號して「三貴」と曰い，國を蠹（きくいむし）し民を害し，日月滋々甚だし。
北齊［齊の韓長鸞の傍若無人］**長鸞**の弟の**萬歲**，子の**寶行**、**寶信**，並びて開府儀同三司なり，**萬歲**は仍ほ侍中を兼ね，**寶行**、**寶信**は皆な**公主**に尚す。群臣の旦參（朝參）する毎に，**帝**は常に先ず**長鸞**を引いて顧訪し，出でて後に，方に奏事官を引く。若し事を視ず，内省に急に奏事有れば，皆な**長鸞**に附して奏聞せしむ。軍國の要密は，手を經ざるは無し。尤も士人を疾み，朝夕宴私し，唯だ譖訴を事とす。常に刀を帶び馬を走らせ，未だ嘗て安行せず，目を嗔して拳を張り，人を啖う之勢い有り。朝士は事を咨るに，敢えて仰視する莫く，動もすれば呵叱を致す。毎に罵りて云う、
「漢狗は大いに耐える可からず，唯だ須らく之を殺すべし！」
北齊■庚辰（16-4+1=１３日），齊は**崔象**を遣わして來聘せしむ。
■辛巳（17-4+1=１４日），**上**は南郊に祀（続は幸）す。甲午（30-4+1=２７日），太廟に享す。**二月**，辛丑（37-33+1=５日），明堂に祀る。
北齊［輕霄の入れ墨］乙巳（41-33+1=９日），齊は**右皇后**の**穆氏**を立てて**皇后**と為す。**穆后**の母の名は**輕霄**，本は**穆氏**之婢也，面に黥字（入れ墨、北史に曰く、輕霄は本は穆子倫の婢、転じて）有り。**后**は既に**陸令萱**を以て母と為し，**穆提婆**を外家と為し，**令萱**を號して「**太姬**」と曰う。**太姬**と者，齊の**皇后**の母の號也，一品に視え，**班**は長公主の上に在り。是に由りて復た**輕霄**を問わず。**輕霄**は自ら面を療し，**后**に見えるを求めんと欲し，**太姬**は之を禁掌せ使め，竟に見えるを得ず。
北齊［齊主は文學を好む］**齊主**は頗る文學を好む。丙午（42-33+1=１０日），**祖珽**は奏して文林館を置き，多く文學之士を引いて以て之を充たし，之を待詔と謂う。中書侍郎（既×）の博陵の**李德林**、黄門侍郎の琅邪の**顏之推**を以て同じく館事を判し，又た命じて《修文殿（齊の大統中に東宮を毀ち、修文等の殿を起こす）御覽》を共撰せしむ。
●甲寅（50-33+1=18日），周の太子の**贇**は西土を巡省す。**(10-096p)**
北齊乙卯（51-33+1=19日），齊の北平王の**堅**（仁堅が正しい）を以て尚書事を錄せしむ。丁巳（53-33+1=２１日），**齊主**は晉陽に如く。
●北齊壬戌(58-33+1=２６日），周は司會（周の官、冢宰に属す。會は大計、司會は天下の大計を主る。計官の長。北周の司會は天官に属す、中大夫なり）の**侯莫陳凱**等を遣わして齊に聘せしむ。
●**三月**，己卯（15-3+1=１３日），周の**太子**は（西土を巡省中の）岐州に於いて二白鹿を獲り以て獻じ，**周主**は詔して曰く、
「德に在り、瑞に在らず。」

北齊庚辰（16-3+1=１４日），**齊主**は鄴に還る。（この部分、三月己卯の前に在り、続により周齊）

【陳は北齊に大攻勢】

■［吳明徹に齊を伐たしむ］**帝**は齊を伐たんと謀り，公卿は各々異同有り，唯だ鎮前將軍（梁の武帝は八鎮将軍を置き、東西南北は外にあり、左右前後は内にあり）の**吳明徹**は策を決し行くを請う。**帝**は公卿に謂って曰く、

「**朕**の意は已に決す，卿は共に元帥を擧げる可し。」

衆議は中權將軍（梁は四中譙軍を置き、八鎮将軍と同じく官品第二に擬す。四中は四征の上、八鎮の下に班す）の**淳於量**の位重きを以て，共に署して之を推す。尚書左僕射の**徐陵**は獨り曰く、

「**吳明徹**の家は淮左に在り，彼の風俗を悉くす。將略人才は，當に今亦た過ぎる者無し。」

都官尚書の河東の**裴忌**は曰く、

「臣は**徐僕射**に同（賛同）す。」

陵は聲に應じて曰く、

「但だ**明徹**が良將になるのみに非ず，**裴忌**は即ち良副也。」

壬午（18-3+1=１６日），衆軍に分命して，**明徹**を以て征討諸軍事を都督せしめ，**忌**に軍事を監せしめ，衆十萬を統べて齊を伐たしむ。**明徹**（秦郡出身）は秦郡に出でる。都督の**黃法𣰰**は歷陽に出でる。

●**夏，四月**，己亥（35-32+1=４日），**周主**は太廟に享す。

■癸卯（39-32+1=８日），前巴州（梁は巴州を巴陵に置く）刺史の**魯廣達**は齊師と大峴（合肥の南、歷陽の北、現・合肥市瑤海区）に戰い，之を破る。

北齊戊申（44-32+1=１３日），齊は蘭陵王の**長恭**を以て太保と為し，南陽王の**綽**を大司馬と為し，安德王の**延宗**を太尉と為し，武興王の**普**を司徒と為し，開府儀同三司の宜陽王の**趙彥深**を司空と為す。

■北齊［吳明徹は水柵を破る］齊人は秦郡に於いて秦州を置き，州前の江浦は塗水（続は涂水、滁水のこと）に通じ，齊人は大木を以て水中に柵を為る。辛亥（47-32+1=１６日），**吳明徹**は豫章內史の**程文季**を遣わして驍勇を將いて其の柵を拔かしめ，之に克つ。**文季**は，**靈洗**（梁陳で勇を以て鳴る）之子也。齊人は陳の師を御ぐを議し，開府儀同三司の**王紘**は曰く、

「官軍比（このごろ）屢々利を失い，人情は騷動す（之を史に考えるに、比年以来、齊の師は未だ嘗て利を失わず。蓋し宜陽・汾北を争い、周齊は更々勝ち迭に敗れる。周の師退くと雖も、齊の師も亦疲れしなり）。若し復た出でて江、淮に頓すれば，恐らくは北狄（突厥）、西寇（周）は弊に乘り而して來たらん，則ち世事は去らん矣（続は欠）。賦を薄くし徭を省き，民を息め士を養うに若くは莫し，朝廷をして協睦（続は輯睦）し，遐邇（遠近）をして心を歸せ使むべし。天下は皆な當に肅清し，豈に直（ただ）に**陳氏**而して已むならんや。」

從わず。軍を遣わして歷陽を救い，庚申（56-32+1=２５日），**黃法𣰰**は擊ちて之を破る。又た開府儀同三司の**尉破胡**、**長孫洪略**を遣わして秦州を救わしむ。

北齊［趙彥深は源文宗に計を問う］**趙彥深**は私に計を秘書監の**源文宗**に問いて曰く、

「吳賊は侏張（鴟張と意相似たり、張大の意味）し，**(10-097p)**遂に此に至る。弟は往（さき）に秦（齊は秦州を秦郡に置く）、涇（齊は涇州を石梁に置く）の刺史と為り，江、淮の間に情事を悉くす，今何の術か以て之を御ぐや？」

文宗は曰く、

「朝廷の精兵は，必ず肯えて多く諸將に付せざらん。數千已下ならば，適々（たまたま）吳人之餌と為るに足る。**尉破胡**の人品は，王（趙彥深は宜陽王に封じられ、故に之を称す）之知る所なり。敗績之事は，朝に匪ざれば伊れ夕（ゆうべ）ならん。國家は淮南を待遇し，之を失うは蒿箭に同じ（惜しむに足らず）。**文宗**の計の如き者，專ら**王琳**に委ね，

淮南の三四萬人を招募するに過ぎず，風俗は相い通じ，能く死力を得ん。兼ねて舊將をして兵を將いて淮北に屯せ令め，足るに固守を以てす。且つ**琳**之頊に於ける，必ず肯えて北面して之に事えざること，明らかなり矣。竊(ひそか)に謂うに此れ計之上なる者なり。若し赤心を**琳**に推さず，更に餘人を遣わして制肘すれば，復た禍いを速く成し，彌々為す可からざらん。」

彦深は歎じて曰く、

「弟の此の策は誠に勝ちを千里に制するに足らん，但だ口舌もて之を爭うこと十日，已に從われず。時事此に至り，安んぞ言を盡くす可けんや！」

因りて相い顧みて流涕す。**文宗**の名は**彪**，字を以て行わる，**子恭**（源子恭は幹用を以て熙平・永安の間に称せらる）之子也。

北齊［龍現わる］**文宗**の子の**師**は左外兵郎中と為り，祠部に攝し，嘗て**高阿那肱**に白す、

「龍見われる、當に雩（雨乞い）すべし。」（春秋左傳に曰く、龍見われて雩すと。杜豫の注に曰く、龍陂建巳の就きに見わる。蒼龍宿の體なり。昏に東方に見われ、萬者始めて盛んに、雨を待ちて大なり。故に天を祭り、遠く百穀の為に甘雨を祈ると）

阿那肱は驚いて曰く、

「何處にか龍見わるや？其の色は如何や？」

師は曰く、

「龍星初めて見わる，禮に當に雩祭，真の龍に非ざる也。」

阿那肱は怒りて曰く、

「漢兒は多事なり，強いて星宿を知る！」

遂に祭らず。**師**は出で。竊に歎じて曰く、

「禮は既に廢す矣，齊は能く久しからん乎！」

■北齊［蕭摩訶は銑鋗で西域胡を倒す］齊の師は長大にして膂力有る者を選びて前隊と為し，又た蒼頭、犀角、大力有り，其の鋒は甚だ鋭なり，又た西域胡有り，善く射，弦に虚發無く，衆軍は尤も之を憚る。辛酉（57-32+1=２６日），呂梁（澎城にあり、石梁の間違いかも）に戰う。將に戰わんとし，**吳明徹**は巴山太守の**蕭摩訶**に謂って曰く、

「若し此の胡を殪(たお)せば，則ち彼の軍は氣を奪われん，君の才は**關羽**に減ぜずや矣。」

摩訶は曰く、

「願わくは其の狀を示せ，當に公の為に之を取るべし。」

明徹は乃ち降人を召し胡を識る者有り，指さして之を示さ使め，自ら酒を酌みて以て**摩訶**に飲まし。**摩訶**は飲み畢り，馬を馳せて齊の軍を衝く。胡は身を挺して陳前に出ること十餘步，弓を彀(は)りて未だ發せず，**摩訶**は遙(はるか)に銑鋗（小鑿）を擲ちて，正に其の額に中て，手に應じ而して僕(たお)す。齊の軍の大力十餘人は出でて戰い，**摩訶**は又た之を斬る。是に於いて齊軍は大敗し，**尉破胡**は走り，**長孫洪略**は戰死す。

■北齊［尉破胡・王琳は敗れる］**破胡**之師を出す也，齊人は侍中の**王琳**をして之と俱にせ使む。**琳**は**破胡**に謂って曰く、

「吳兵は甚だ鋭なり，宜しく長策を以て之を制し，慎んで輕々しく鬥う勿かれ！」

破胡は從わず而して敗れ，**琳**は單騎にして僅に免れ，還り，彭城に至り，齊人は即ち之をして壽陽に赴き召募し以て陳の師を拒ま使め，復た**盧潛**（壽陽に在りて王琳と協わざること 168 巻世祖天嘉二年にあり）を以て揚州道行台尚書と為す。

■北齊［徐槫・黄法くは石梁・合肥を落す］甲子（60-32+1=２９日），南譙太守の**徐槫**は（10-098p）石梁

城（齊は涇州を此処に置く。安徽省淮泗道天長建の西北、現・滁州市天長市）に克つ。**五月**，己巳（5-2+1=４日），瓦梁城（江都郡六合県、江蘇省金陵道六合県の界、現・南京市六合区）は降る。癸酉（9-2+1=８日），陽平郡（梁は淮州を置き淮陰城に治す。其の属に陽平郡有り。陽平城に治す。淮陰城の西）は降る。甲戌（10-2+1=９日），**徐槾**は廬江城（梁は廬江郡を置き、潜県に治す。安徽省安慶道潜山県、現・安慶市潜山市、徐槾の師は漸く西に向かう。合肥市廬江県）に克つ。歷陽の**窘蹙**は降を乞い，**黃法𣰰**は之を緩め，則ち又た拒み守る。**法𣰰**は怒り，卒を帥いて急に攻め，丙子（12-2+1=１１日），之に克ち，盡く戍卒を殺す。進みて合肥に軍し，合肥は旗を望（朔×）みて降を請う，**法𣰰**は侵掠を禁じ，戍卒を撫勞し，之と盟し而して之を縦（はな）つ。

●丁丑（13-2+1=１２日），周は柱國の**侯莫陳瓊**を以て大宗伯と為し，滎陽公の**司馬消難**を大司寇と為し，江陵總管の**陸騰**を大司空と為す。**瓊**は，**崇**（八柱國の一人）之弟也。

■北齊［吳明徹は郷里の秦郡に入る］己卯（15-2+1=１４日），齊の北高唐郡（五代志に、同安郡宿松県に梁は高唐郡を置く。安徽省安慶道宿松県、現・安慶市宿松県）は降る。辛巳（17-2+1=１６日），南豫州刺史の**黃法𣰰**に詔して徒りて歷陽に鎮せしむ。乙酉（21-2+1=２０日），南齊昌太守の**黃詠**は齊昌（五代志に、蘄春郡蘄春県は旧は蘄陽といい梁は蘄水と改める。北齊は改めて齊昌といい、齊昌郡を置く。湖北省江漢道蘄春県、現・黄岡市蘄春県）の外城に克つ。丙戌（22-2+1=２１日），廬陵内史の**任忠**は東關に軍し，其の東、西二城（呉の諸葛恪が築く）に克ち，進みて蘄城（安徽省安慶道巣県、現・合肥市巣湖市）に克つ。戊子（24-2+1=２３日），又た譙郡城（合州の南譙郡なり、蘄県の界にあり。安徽省安慶道巣県、現・合肥市巣湖市）に克つ。秦州城は降る（四月辛亥に秦州の水楫を抜きしより、是に至るまで 38 日）。癸巳（29-2+1=２８日），瓜步、胡墅の二城（六合県の界）は降る。**帝**は秦郡が，**吳明徹**之郷里なるを以て，詔して太牢を具え，拜祠し塚に上ら令め，文武羽儀は甚だ盛んなり，郷人は之を榮とする。

【北齊は権力抗争で自滅へ】

北齊［祖珽と陸令萱の暗闘］齊は**和士開**の事を用いる（169 巻世祖天嘉四年にあり）より以來，政體は隳紊す。**祖珽**の執政に及び，頗る才望を收舉し，內外は美を稱す。**珽**は復た政務を增損し，人物を沙汰し，官號服章，並びに故事に依らんと欲す。又た諸閹豎及び群小輩を黜け，政治（続は致治）之方を為さんと欲す。**陸令萱**、**穆提婆**は議頗る同異あり。**珽**は乃ち御史中丞の**麗伯律**に諷し，主書（北齊の制、中書省に舍人・主書各々十人有り）の**王子沖**が賂を納れると劾せ令む。其の事が**提婆**に連なると知り，贓罪をして相い及ば使めんと欲し，此に依りて並せ坐して**令萱**に及ばんと望む。猶ほ**齊主**が近習に溺れて，后の黨を引いて援けと為さんと欲するを恐れ，乃ち請いて**胡后**の兄の**君瑜**を以て侍中、中領軍と為す。又た**君瑜**の兄の梁州（北魏は梁州を大梁城に置く）刺史の**君璧**を征して，以て御史中丞と為さんと欲す。**令萱**は聞き而して怒りを懷き，百方排毀し，**君瑜**を出し（内省より出して朝列に置く、ラインから外す）て金紫光祿大夫（晉の左右光祿大夫は金章紫綬を假る。後に左右光祿大夫の下に於いて、亦金紫光祿大夫を置く。銀印青綬を假るは銀青光祿大夫という。北齊の制では金紫光祿大夫は從貳品、中領軍は第參品。君瑜は既に中領軍を解き、品秩有れども職事無し）と為し，中領軍を解く。**君璧**は還りて梁州に鎮す。**胡后**之廢されるや，頗る亦た此に由る。王子の**沖**を釋して問わず。

北齊［陸令萱は譖し、祖珽は失脚外出］**珽**は日々益々以て疏んぜられる。諸宦者は更々（こもごも）共に之を譖す。**（10-099p）帝**は以て**陸令萱**に問い，**令萱**は憫默（憂えと敢えて言わず）して對えず，三問し，乃ち床を下りて拜して曰く、

「老婢は應に死すべし。老婢は始め**和士開**が、**孝征**は多才博學なり、と言うを聞き，意は善人と謂い，故に之を舉げたり。比來之を觀るに，大いに是れ奸臣なり。人は實に知り難し，老婢は應に死すべし。」

帝は**韓長鸞**をして檢按（取り調べ）せ令む。**長鸞**は素より**珽**を惡み，其の詐りて敕を出して賜を受ける等十

餘事を得る。**帝**は嘗て之と重誓するを以て，故に殺さず，**斑**の侍中、僕射を解きて，出して北徐州（五代志に、琅邪郡に置くと）刺史と為す。**斑**は**帝**に見えんと求め，**長鸞**は許さず，人を遣わして柏閣に推し出し，**斑**は坐し，肯えて行かず，**長鸞**は牽曳し而して出で令む。

北齊［獨り段家の尚書］癸巳(29-2+1=２８日)，齊は領軍の**穆提婆**を以て尚書左僕射，侍中と為し、中書監の**段孝言**を右僕射と為す。**孝言**は，**韶**（高氏に歴事し、五世忠孝を著わし戦功多し）之弟也。初め，**祖斑**の執政するや，**孝言**を引いて助と為し，吏部尚書に除す。**孝言**の凡そ進擢する所，賄に非ざれば則ち舊なり，仕えるを求める者は或は廣會に於いて膝行跪伏し，公に自ら陳請し，**孝言**は氣色（続は顔色）揚揚として，以て己が任と為し，事に隨いて酬許す。將作丞の**崔成忽**は衆中に於いて抗言して曰く、

「尚書は，天下の尚書なり，豈に獨り**段家**の尚書なる也！」

孝言は辭の以て應える無く，唯だ色を厲まして遣り下らし而して已む。既に而して**韓長鸞**等と共に**祖斑**を構え，逐に而して之に代わる。

北齊［蘭陵武王の長恭は鴆殺される］齊の蘭陵武王の**長恭**は，貌は美しく而して勇なり，邙山之捷ち（169巻世祖天嘉五年にあり）を以て，威名は大いに盛んなりて，武士は之を歌い，《蘭陵王入陳の曲》（戦場では常に仮面を着ける。周師を金塘城下に撃ち、勇は三軍に冠たり。齊人は之を壯として此の舞いを作り、以て其の指揮撃刺の容に效う）を為り，**齊主**は之を忌む。**段韶**に代わりて諸軍を督して定陽(前巻太建三年にあり)を攻めるに及び，頗る聚斂を務め，其の所親の**尉相願**は之に問いて曰く、

「王は朝寄を受ける，何ぞ此くの如きを得るや？」

長恭は未だ應えず。**相願**は曰く、

「豈に邙山之捷ちを以て，自ら穢さんと欲するに非ず乎？」

長恭は曰く、

「然り。」

相願は曰く、

「朝廷が若し王を忌めば，即ち當に此を用いて罪と為すべし，乃ち禍を避け而して更に之を速やかにする無からん乎！」

長恭は涕泣して膝を前めて計を問い，**相願**は曰く、

「王は前に既に功有り，今復た捷ちを告げる，聲威は太だ重し。宜しく疾いに屬して家に在るべし，時事に預る勿かれ。」

長恭は其の言を然りとし，未だ退く能わず。江、淮の兵を用いるに及び，復た將と為るを恐れ，歎じて曰く、

「我は去年面腫れたり，今何ぞ發せざるや！」

是より疾有れども療さず。**齊主**は遣使して之を鴆殺す。

【陳の攻勢続く】

■北齊**六月**，郢州刺史の**李綜**は灄口（湖北省江漢道黄陂県にあり、古は灄水の江に入る口、現・武漢市黄陂区）城に克つ。乙巳（41-31+1=１１日），**任忠**は合州（地形志及び五代志に、合州は合肥に治すとする。合肥は前に既に黄法𣰰に降る。今任忠が又合州の外城に克つは、疑うべし）の外城に克つ。庚戌（46-31+1=１６日），**(10-100p)** 淮陽（梁が置く郡、江蘇省淮揚道淮陰県西南、現・淮安市淮陰区），沭陽郡（梁の潼陽郡、東魏は名を改む、江蘇省徐海道沭陽県に治す、現・宿遷市沭陽県）は並びて城を棄てて走る。

●壬子（48-31+1=１８日），周の皇孫の**衍**は生まれる。

北齊**齊主**は南苑に游び，従官の死を賜う者は六十人。**高阿那肱**を以て司徒と為す。

■北齊癸丑（49-31+1=１９日），**程文季**は齊の涇州（石梁に治す）を攻め，之を抜く。乙卯（51-31+1=２１日），宣毅（梁は鎮兵・翊師・宜惠・宣毅の四将軍を置き、旧の四中郎将に代る、蓋し皆長史司馬あり）司馬の**湛陀**は新蔡城に克つ。

北齊●丙辰（52-31+1=２２日），齊は開府儀同三司の**王紘**をして周に聘さ使む。

■北齊癸亥（59-31+1=２９日），**黄法𣰰**は合州に克つ（之を見れば、前に降らんと請う者は合肥の戍卒なり）。**吳明徹**は進みて仁州（梁は仁州を置き、赤坎城に治す。蓋し山陽県の界にあるべし、江蘇省淮揚道淮安県、現・淮安市淮安区）を攻め，甲子（60-31+1=３０日），之に克つ。

■明堂（五代志に陳の制、明堂は殿屋十二間、中央六間、六座を安んず、四方の帝は各々其の方に依り、黄帝は坤維に居ると）を治める。

■北齊［吳明徹・周炅は峽口・巴州に克つ］**秋，七月**，戊辰（4-1+1=４日），齊は尚書左丞の**陸騫**を遣わして兵二萬を將いて齊昌を救わしめ，巴、蘄(巴水蘄水の間)より出ず，西陽（黄岡県の界、湖北省江漢道黄岡県、現・黄石市黄石港区）太守の汝南の**周炅**に遇う。**炅**は羸弱を留め，疑兵を設けて以て之に當たらせ，身は精鋭を帥いて，間道より其の後を邀え，大いに之を破る。己巳（5-1+1=５日），征北大將軍の**吳明徹**の軍は峽口（峽石口、南北岸に城あり）に至り，其の北岸の城に克つ。南岸の守者は城を棄てて走る。**周炅**は巴州（北齊は巴州を黄岡に置く）に克つ。淮北、絳城（蓋し虹県城なり。恐らくは江北諸城ならん）及び穀陽（江北にあり）の士民は，並せて其の戍主を殺し，城を以て降る。

■北齊［壽陽の攻防戦］齊の巴陵王の**王琳**は揚州刺史の**王貴顯**と壽陽の外郭を保ち，**吳明徹**は**琳**の初めて入り，衆心未だ固まらざるを以て，丙戌（22-1+1=２２日），夜に乗りて之を攻め，城は潰え，齊兵は退きて相國城（壽陽内、劉裕が長安を伐つ時に築城）及び金城（壽陽の中城）に據る。

■北齊［陳は青洲にまで侵攻］**八月**，乙未（31-30+1=２日），山陽（江蘇省淮揚道淮安県、現・淮安市淮安区）城は降る。壬寅（38-30+1=９日），盱眙（安徽省淮泗道盱眙県の東北、現・淮安市盱眙県）城は降る，壬子（48-30+1=１９日），戎昭將軍（陳の制の品八、秩六百石）の**徐敬辯**は海安城（海陵県の東、江蘇省淮揚道泰県、現・泰州市海陵区）に克つ。青州の東海城（東海郡に梁は南北二青州を置く）は降る。戊午（54-30+1=２５日），平固侯の**敬泰**等は晉州（安徽省安慶道潜山県の東八十里、現・安慶市潜山市）に克つ。**九月**，甲子（0-0+1=１日），陽平城（江蘇省淮揚道寶應県の西南に梁は置く、現・揚州市宝応県）は降る。壬申（8-0+1=９日），高陽太守の**沈善慶**は馬頭城（安徽省淮泗道懐遠県に北齊は馬頭郡を置く、現・蚌埠市懐遠県）に克つ。甲戌（10-0+1=１１日），齊安城（湖北省江漢道黄岡県に北齊は齊安郡を置く、現・黄岡市）は降る。丙子（12-0+1=１３日），左衛將軍の**樊毅**は廣陵（江都の廣陵ではない、新息の廣陵。河南省汝陽道息県、現・信陽市息県）の楚子城（梁の武帝は楚州を汝南郡の城陽県に置く、楚城に治す。河南省汝陽道信陽県の東北、現・信陽市平橋区）に克つ。

●［楊堅は北周の外戚となる］壬午（18-0+1=１９日），周の太子の**贇**は妃の**楊氏**を納れる。妃は，大將軍の隨公の**堅**（楊堅）之女也。

●［周の太子の教育に尉遲運］**太子**は好んで小人に暱近し，(10-101p) 左宮正の**宇文孝伯**は**周主**に言って曰く、

「**皇太子**は四海の屬する所なり，而るに德聲は未だ聞こえず。臣は宮官を忝(かたじけな)くし，實に其の責めに當る。且つ春秋尚ほ少なく，志業は未だ成らず，請う正人を妙選し，其の師友と為さん，聖質を調護すれば，猶ほ日に就(したが)い月に將(おこな)うを望まん（當に之を習うに積を以てすべきを言う）。如し或は然らざれば，悔いるとも及ぶ

無し矣！」
帝は容(かたち)を斂(あらた)めて曰く、
「卿は世々鯁直（不正を許さず、人に屈しない事）を載せ，誠を事える所に竭(つく)す。卿の此の言を觀るに，家風有り矣。」
孝伯は拝謝して曰く、
「言うこと之難きに非ず，受けること之難き也。」
帝は曰く、
「正人は豈に復た卿に過ぎんや！」
是に於いて**尉遲運**を以て右宮正と為す。**運**は，**迥**之弟子也。
●［太子は中人と樂運は言う］**帝**は嘗て萬年縣丞の南陽の**樂運**に問いて曰く、
「卿は**太子**は何如なる人と言うか？」
對えて曰く、
「中人なり。」
帝は顧みて齊公の**憲**に謂って曰く、
「百官は我に佞し，皆な**太子**の聰明睿智を稱す。唯だ**運**が言う所の忠直なる耳。」
因りて**運**に中人之狀を問う。對えて曰く、
「齊の**桓公**の如き是也。**管仲**は之に相たるは則ち霸たり，**豎貂**之を輔けるときは則ち亂る，與に善を為す可く，與に惡を為す可し。」
帝は曰く、
「我は之を知る矣。」
乃ち宮官を妙選し以て之を輔ける。仍って**運**を擢んでて（赤県丞から）京兆丞と為す。**太子**は之を聞き，意は甚だ悦ばず。

【壽陽陷落と北齊の粛清】

■癸未（19-0+1=２０日），**沈君理**は卒す。
■壬辰（28-0+1=２９日）晦，前鄱陽内史の**魯天念**は黄城（黄陂城なり、湖北省江漢道黄陂県、現・武漢市黄陂区）に克つ。**冬，十月**，甲午（30-29+1=２日），郭默城（晉氏は競わず、劉石強盛にして郭默轉徙して南し、城を築きて以て自ら保す、故にその名あり）は降る。
■己亥（35-29+1=７日），特進領國子祭酒の**周弘正**を以て尚書右僕射と為す。
北齊［張雕の改革への抵抗］齊の國子祭酒の**張雕**は，經を以て**齊主**に授け侍讀と為る，**帝**は甚だ之を重んじる。**雕**は寵胡の**何洪珍**と相い結び，**穆提婆**、**韓長鸞**等は之を惡む。**洪珍**は**雕**を薦して侍中と為し，開府儀同三司を加え，度支（北齊に六尚書あり、度支は其の一なり。度支・倉部・左戸・右戸・金部・庫部の六曹凡ての度支の事を統べる）の事を奏し，大いに**帝**の委信する所と為り，常に「博士」と呼ぶ。**雕**は自ら微賤に出で，位は大臣に致せるを以て，效を立て以て報恩せんと欲し，論議は抑揚，迴避する所無し，宮掖の不急之費えを省き，左右の驕縱之臣を禁約し，數々寵要を譏切し，帷幄に獻替（善をすすめ悪を退ける）し，**帝**も亦た深く之に倚仗す。**雕**は遂に澄清を以て己が任と為し，意氣は甚だ高く，貴幸は皆な目を側だて，陰謀は之に陷つ（続は欠）。
北齊尚書左丞の**封孝琰**は，**隆之**（高歡挙兵時の佐命の臣）之弟の子也，侍中の**崔季舒**と，皆な**祖珽**の厚き所と

為る。**孝琰**は嘗て**斑**に謂って曰く、
「公は是れ衣冠の宰相，餘人に異なる。」
近習は之を聞き，大いに以て恨みと為す。
北齊［齊主は季舒らを大虐殺］會々**齊主**は將に晉陽に如かんとし，**季舒**は**張雕**と議し，以為く、
「壽陽は圍まれ，大軍は出でて之を拒ぐ，信使往還するは，須く節度を稟くべし。且つ道路の小人は，或は相い驚恐し，大駕は并州に向かい，南寇を畏避すると以て為す。若し啟して諫めざれば，恐らくは人情は駭動せん。」(10-102p)
遂に從駕の文官と連名して進め諫める。時に貴臣の**趙彦深**、**唐邕**、**段孝言**等は，意は異同有り，**季舒**は與に爭い，未だ決せず。**長鸞**は遽に**帝**に言って曰く、
「諸漢官は連名して總署し，聲して并州に幸するを諫めると雲えども，其の實は未だ必ずしも反かずんばあらず，宜しく誅戮を加えるべし。」
辛丑（37-29+1=９日），**齊主**は悉く已に署名する者を召して含章殿に集め，**季舒**、**雕**、**孝琰**及び散騎常侍の**劉逖**、黄門侍郎の**裴澤**、**郭遵**を殿庭に於いて斬り，家屬も皆な北邊に徙し，婦女は奚官に配し，幼男は蠶室に下し，貲產を沒入す。癸卯（39-29+1=１１日），遂に晉陽に如く。
■北齊［吳明徹は壽陽を攻める］**吳明徹**は壽陽を攻め，肥水（壽陽城を経て淮水に注ぐ）を堰(せき)とめて以て城を灌し，城中は多く腫洩を病み，死する者は什に六七。齊の行台右僕射の琅邪の**皮景和**等は壽陽を救い，**尉破胡**が新たに敗れるを以て，怯懦にして敢えて前まず，淮口（蓋し潁口、皮景和の兵は潁上より出て淮に至りて屯す）に屯し，敕使は屢々之を促す。然して始めて淮を渡り，衆は數十萬，壽陽を去ること三十里，軍を頓めて進まず。諸將は皆な懼れ，曰く、
「堅城は未だ拔かず，大援は近くに在り，將に之を若何せん？」
明徹は曰く、
「兵は神速を貴ぶ，而るに彼は營を結びて進まず，自ら其の鋒を挫き，吾は其の敢えて戰わざるを知る，明らかなり矣。」
乙巳（41-29+1=１３日），躬ら甲冑を擐し，四面疾く攻め，一鼓して之を拔き，**王琳**、**王貴顯**、**盧潛**及び扶風王の**可朱渾道**裕、尚書左丞の**李騊駼**を生きて擒として建康に送る。**景和**は北に遁げ，盡く其の駝馬輜重を收める。
■北齊［王琳の死に流涕ぜざるは莫し］**琳**は體貌閑雅にして，喜怒は色に形(あら)わさず。強記にて內は敏なり（続は明敏），軍府の佐吏は千を數え，皆な能く其の姓名を識る。刑罰は濫れず，財を輕んじ士を愛し，將卒の心を得る。地を失い流寓して鄴に在ると雖も，齊人は皆な其の忠義を重んじる。擒えられるに及び，故の麾下の將卒は多く**明徹**の軍中に在り，見る者は皆な歔欷（むせび泣く）し，仰ぎ視る能わず，爭いて之が為に命を請い及び資給を致す。**明徹**は其の變と為るを恐れ，遣使して追いて之を壽陽の東二十里に斬らしめ，哭する者の聲は雷の如し。一叟有り酒脯を以て來たりて祭哭して哀を盡くし，其の血を收め而して去る。田夫野老は，知ると知らざると，聞く者は流涕ぜざるは莫し。
北齊［一の龜茲國と作る］齊の**穆提婆**、**韓長鸞**は壽陽の陷ちるを聞き，槊を握りて輟(てつ)せず，曰く、
「本是は彼の物なり，其の取り去るに從う。」
齊主は之を聞き，頗る以て憂いと為し，**提婆**等は曰く、
「假(たと)い國家をして盡く黄河以南を失わ使めんとするも，猶ほ一の龜茲國と作(な)る可し。更に憐れむ可きは人生は寄るが如し，唯だ當に行樂すべし，何ぞ愁いを用いるを為さん！」

左右の嬖臣は因りて共に之に贊和し，**帝**は即ち大いに喜び，酣飲鼓舞し，仍って黎陽に於いて河に臨みて城戍を築か使む。

北齊■［齊は敗戦の皮景和を賞す］丁未（43-29+1=１５日），齊は兵萬人を遣わして潁口（潁水が淮に入る所）に至る。**樊毅**は撃ちて之を走らす。辛亥（47-29+1=１９日），兵を遣わして蒼陵（揚州淮南郡壽春県に故の楚の蒼陵城有り、安徽省淮泗道寿県、現・淮南市寿県）を援けしめ，又た之を破る。**齊主**は**皮景和**が軍を全くし而して還るを以て，之を賞し，尚書令に除す。

■［呉明徹は壽陽にて祝杯］丙辰（52-29+1=２４日），詔して壽陽を以て復た豫州と為し，黄城を以て司州と為す。**(10-103p) 明徹**を以て都督豫、合等六州諸軍事、車騎大將軍、豫州刺史と為し，謁者の**蕭淳風**を遣わして壽陽に就きて冊命せしめ，城南に於いて壇を設け，士卒二十萬，旗鼓戈甲を陳す。**明徹**は壇に登りて拝受し，禮を成し而して退き，將卒は之を榮とす。**上**は酒を置き，杯を舉げ**徐陵**に屬して曰く、

「卿が人を知るを賞す」

陵は席を避けて曰く、

「策を定めるは聖衷なり，臣の力に非ざる也。」

黄法𣰰を以て征西大將軍、合州刺史と為す。

■北齊［陳は続々と齊の城を落す］戊午（54-29+1=２６日），**湛陀**は齊の昌城に克つ。**十一月**，甲戌（10+60-59+1=１２日），淮陰城（江蘇省淮陽道淮陰県の南、現・淮安市淮陰区）は降る。庚辰（16+60-59+1=１８日），威虜將軍（品第八、秩六百石）の**劉桃枝**（齊に同姓同名あり）は朐山城（五代志に東海郡に朐山県有り、江蘇省徐海道東海県の南、現・連雲港市東海県）に克つ。辛巳（17+60-59+1=１９日），**樊毅**は濟陰城（鐘離郡の化明県は故は睢陵と曰う、濟陰郡を置くと。江蘇省徐海道睢寧県、現・徐州市睢寧県）に克つ。己丑（25+60-59+1=２７日），**魯廣達**は濟（齊の誤り）の南徐州（江蘇省徐海道宿遷県、現・宿遷市宿豫区）を攻め，之に克つ。**廣達**を以て北徐州（齊の南徐州）刺史と為し，其の地に鎮せしむ。

北齊［齊の北徐州民の反乱鎮圧］齊の北徐州（琅邪に置く）民は多く兵を起こして以て陳に應じ，其の州城に逼る。**祖珽**は命じて城門を閉じず，人を禁じて衢路に出るを得ざらしめ，城中は寂然とす。反する者は其の故を測らず，人は走り城は空しきと疑い，備えを設けず。**珽**は忽ち令し鼓噪して天を震わし，反する者は皆な驚き走る。既に而して復た陳を結びて城に向かい，**珽**は錄事參軍の**王君植**をして兵を將いて之を拒ま令む，自ら乘馬して陳に臨み左右に射る。反く者は先ず其の盲なるを聞き，謂えらく其の必ず出でる能わずと，忽ち之を見，大いに驚く。**穆提婆**は城をして陷らし令めんと欲し，援兵を遣わさず，**珽**は且つ戰い且つ守ること，十餘日，反す者は竟に散走す。

■北齊［朱瑒は王琳の首を引き取る］詔して**王琳**の首を建康の市に懸ける。故吏の梁の驃騎倉曹參軍（梁の制に將軍府には功曹・倉曹・中兵・外兵・騎兵・長流・城局などの參軍あり）の**朱瑒**は書を**徐陵**に致して其の首を求め，曰く、

「竊かに以うに典午（司馬）は將に滅びんとし，**徐廣**（119 巻宋の高祖永初元年にあり）は晉家の遺老と為る。當塗（魏なり）已に謝し，**馬孚**（司馬孚の事は 79 巻晉の世祖泰始元年にあり）は魏室の忠臣と稱せらる。梁の故の建寧公の**琳**は，離亂之辰に當たり，方伯之任を總べ，天は梁德を厭えども，尚ほ匡繼（時局を匡扶し，以て統治を延續）するを思い，徒らに**包胥**（申包胥）之志を蘊つみ，終に**萇弘**（周の靈は王位に即き、諸侯は朝せず。萇弘は乃ち鬼神の事を明らかにし射を諸侯の来たらざる者に設け、怪物に依りて以て諸侯を致さんと欲す。諸侯は従わず、周室は愈々微なり。後二世の敬王に至り、晉人は萇弘を殺す）之眚ちに遘い，身をして九泉に沒し，頭をして千里を行か使むるに至る。伏して惟うに聖恩は博厚にして，明詔爰に發し，**王經**之哭（魏の元帝景元元年に司馬昭は高貴鄉公を弑し併せて王經を収める。

其の吏の向雄は經を抱きて東市に哭す。昭は雄を赦す）を赦し，**田横**（漢の高帝は田横を葬る事 11 巻五年にあり）之葬を許すべし。壽春の城下（魏の高貴郷公の甘露三年に司馬昭は寿春をわ破る。諸葛誕の麾下は降らずして死す。77 巻にあり）をして，唯だ葛に報ずる之人に傳え、滄洲島上をして，獨り田を悲しむ之客有ら使めざれ。」**(10-104p)**

陵は之が為に上に啟す。**十二月**，壬辰（28-28+1=１日）朔，**熊曇朗**（168 巻世祖天嘉元年に誅殺）等の首を並せて皆な其の親屬に還す。**場**は**琳**を八公山の側に瘞（うず）め，義故の會葬する者は數千人。**場**は間道して齊に奔り，別に迎葬を議し，尋いで壽陽の人の**茅智勝**等五人有り，密に其の柩を鄴に送る。齊は**琳**に開府儀同三司、錄尚書事を贈り，謚して忠武王と曰い，輼輬車（秦漢以来天子を葬るに使う）を給し以て之を葬す。

●［三教の順番］癸巳（29-28+1=２日），**周主**は群臣及び沙門、道士を集め，**帝**は自ら高坐に升り，三教の先後を辨じ，儒を以て先と為し，道を次と為し，釋を後と為す。

■乙未（31-28+1=４日），譙城（五代志に、譙郡の山桑県に梁は渦州を置く、東魏は譙州という。安徽省淮泗道蒙城県、現・亳州市蒙城県）は降る。

■乙巳（41-28+1=１４日），皇子の**叔明**を立てて宜都王と為し，**叔獻**を河東王と為す。

■壬午（壬子?なら 48-29+1=２０日），**任忠**は霍州（五代志に、盧江郡霍山県に梁は霍州を置くと。安徽省安慶道霍山県、現・六安市霍山県）に克つ。

■北齊［周炅は齊の田龍升を討伐］詔して安州（五代志に、西魏は安州を安陸に置く。梁陳には安州無し。隋書周法尚傳には周炅を定州刺史と為すと。安は定の誤りかも）刺史の**周炅**を征して入朝せしむ。初め，梁の定州（梁が置く、蒙龍城に治す。五代志に、永安郡麻城県に陳は定州を置く、湖北省江漢道麻城県、現・黄岡市麻城市）刺史の**田龍升**は城を以て降り，詔して舊任に仍る。**炅**の入朝するに及び，**龍升**は江北六州、七鎮を以て叛して齊に入り，齊は歷陽王の**景安**を遣わして兵を將いて之に應ぜしむ。詔して**炅**を以て江北道大都督と為し，衆軍を總べ以て**龍升**を討たしめ，之を斬る。**景安**は退き走り，盡く江北之地を復す。

突厥 北齊是の歳，突厥は昏を齊に求める。

高宗宣皇帝上之下太建六年（甲午，５７４年）

●**春，正月**，壬戌（58-58+1=１日）朔，周の齊公**憲**等七人は爵を進めて王と為す。

●己巳（5+60-58+1=８日），**周主**は太廟に享す。乙亥（11+60-58+1=１４日），藉田を耕す。

■壬午（壬子×、18+60-58+1=２１日），**上**は太廟に享す。甲申（20+60-58+1=２３日），廣陵の金城（去年九月に樊毅は廣陵の楚子城に克つ）は降る。

■**二月**，辛卯（壬午×、続の壬辰×、27-27+1=１日）朔，日之を食する有り。

北齊乙未（31-27+1=５日），**齊主**は鄴に還る。（去年十月晉陽に如き、此処に至りて始めて還る）

●丁酉（33-27+1=７日），周の紀國公の**賢**等六人は爵を進めて王と為す。

■辛亥（47-27+1=２１日），**上**は藉田を耕す。

【齊主の横暴と周主の孝養】

北齊［嬖臣密告で思好の反乱、鎮圧］齊の朔州行台の南安王の**思好**は，本は**高氏**の養子なり，驍勇にして，邊鎮人心を得る。**齊主**は嬖臣の**斫骨光弁**をして州に至ら使め，**光弁**は**思好**に禮せず，**思好**は怒り，遂に反し，云う、

「入りて君側之惡を除かんと欲す。」
進軍して陽曲（山西省冀寧道陽曲県、現・太原市陽曲県・晋源区）に至り，自ら大丞相と號す。武衛將軍の**趙海**は晉陽に在り，蒼猝にして奏するに暇あらず，詔を矯め兵を發して之を拒む。**帝**は變を聞き，尚書令の**唐邕**等をして（10-105p）馳せて晉陽に之か使む。辛丑（37-27+1=１１日），**帝**は兵を勒して繼いで進む。未だ至らず，**思好**の軍は敗れ，水に投げて死す。其の麾下二千人は，**劉桃枝**は之を圍み，且つ殺し且つ招き，終に降らず，以て盡くるに至る。
北齊［密告者を放置］是より先，人有りて**思好**の謀反を告げ，**韓長鸞**の女は**思好**の子に適く，奏して言わく、
「是の人は貴臣を誣告す，殺さざれば以て後を息むる無し。」
乃ち之を斬る。**思好**は既に誅せられ，告げる者の弟は闕下に伏し贈官を求め，**長鸞**は為に通じず。
北齊丁未（43-27+1=１７日），**齊主**は鄴に還る。甲寅（50-27+1=２４日），**唐邕**を以て錄尚書事と為す。
●乙卯（51-27+1=２５日），**周主**は雲陽宮に如く。
●丙辰（52-27+1=２６日），周は大赦す。
●［周主は太后の喪に服す］庚申（56-27+1=３０日），周の**叱奴太后**は疾有り。**三月**，辛酉（57-57+1=１日），**周主**は長安に還る。癸酉（9+60-57+1=１３日），**太后**は殂す。**帝**は倚廬（喪に服する場、廬は東牆に倚りて作る）に居り，朝夕一溢（二十両を溢と為す。粟米の法に於いて一溢は米一升二十四分升の一と為す）の米を進める。群臣は表請し，累旬にして乃ち止む。**太子**に命じて庶政を總厘（統べ治める）せしむ。
●［周主は服喪を齊王の憲に強制せず］衛王の**直**は齊王の**憲**を**帝**に譖りて曰く、
「**憲**は飲酒し肉を食らい，平日に異なる無し。」
帝は曰く、
「吾は齊王と生を異なる（異い母），俱に正嫡に非ず。特に吾が故を以て，同じく祖し括發（括は結ぶ、麻を以て髪を約す）す。汝は當に之を愧ずべし，何ぞ得失を論ぜん！汝は，親しく**太后**之子にして，特に慈愛を承ける。但だ當に自ら勉めるべし，他人を論ずる無し。」
北齊●**夏，四月**，乙卯（51-27+1=２５日），齊は侍中の**薛孤康買**を遣わして周に吊（とむら）わしめ，且つ會葬す。
北齊［齊主は馮小憐を寵愛］初め，齊の**世祖**は**胡后**の為に珠裙褲を造り，費やす所は勝げて計える可からず。火の焚く所と為る。是に至り，**齊主**は復た**穆后**の為に之を營む。商胡をして錦彩三萬を繼（もたら）し，吊使と偕に往きて珠を市（か）わ使む。周人は與えず，**齊主**は竟に自ら之を造る。**穆后**の愛衰えるに及び，其の侍婢の**馮小憐**は大いに幸せられ，拜して**淑妃**と為す。**齊主**と坐せば則ち同席し，出でれば則ち馬を並べ，生死を同じするを誓う。
●［周主は三年喪を強行］**五月**，庚申（56-56+1=１日），周（同×）は**文宣皇后**を永固陵に葬り，**周主**は跣行して陵所に至る。辛酉（57-56+1=２日），詔して曰く、
「三年之喪は，**天子**に至る。但だ軍國の務めは重し，須く自ら朝を聽くべし。衰麻之節，苫廬之禮（喪服小記に、斬衰し髪を括るに麻を以てし、苫に寢ね。廬に居ると）は，率ね前典に遵い，以て極まり罔き（詩に、父や我を生み、母や我を鞠う。之が徳に報いんと欲すれども、昊天極り罔しとあるにもとずく）を申べん。百僚は宜しく遺令に依り，既に葬り而して除（服を除す）すべし。」
公卿は固く權制に依るを請い，**帝**は許さず，卒に三年之制を申ぶ。五服（斬衰は三年の服、齊衰は期年の服、大功は九月の服、小功は五月の服、總麻は三月の服）之內，亦た禮に依ら令む。
■庚午（6+60-56+1=１１日），齊は大赦す。

北齊齊人は陳師の淮を渡るを恐れ，**皮景和**をして西兗州（定陶に治す、山東省済寧道定陶県、現・菏沢市定陶区）に屯し以て之に備え使む。**(10-106p)**

●［周の仏教・道教の禁止令］丙子（12+60-56+1=１７日），周は佛、道の二教を禁じ，經（経典）、像（仏像・天尊）は悉く毀し，沙門、道士を罷め，並せて還俗せ令む。並せて諸々の淫祀を禁じ，祀典の載せる所の者に非ざれば盡く之を除く。

●**六月**，壬辰（28-26+1=３日），周の**弘正**は卒す。

●壬子（48-26+1=２３日），周は更に五行大布錢を鑄，一は十に當り，布泉（168 巻世祖天嘉元年に施行）と並び行う。

●戊午（54-26+1=２９日），周は通道觀を立てて以て聖賢之教えを壹にす。

●**秋，七月**，庚申（56-55+1=２日），**周主**は雲陽に如き，右宮正の**尉遲運**を以て司武（大司馬の属官）を兼ねしめ，薛公の**長孫覽**と**太子**を輔けて長安を守らしむ。

●［尉遲運は衛王の直の侵入阻止の大功］初め，**帝**は衛王の**直**の第を取りて東宮（建徳元年に太子を立てて東宮を建つ）と為し，**直**をして自ら居る所を擇ば使む。**直**は府署を歷觀し，意の如くなる者無し。末に廢陟岵寺（母を望むを取りて名と為す。直の意は同母なるを以て周主を感動せんと欲するなり）を取り，之に居らんと欲す。齊王の**憲**は**直**に謂って曰く、

「弟の子孫は多し，此れ乃ち褊小なる無からんや？」

直は曰く、

「一身すら尚ほ自ら容れず，何ぞ子孫を論じん！」

直は嘗て**帝**の校獵に從い而して亂行す，**帝**は衆に對して之を撻つ。**直**は怨憤を積み，**帝**の外に在るに因りて，遂に亂を作す。乙酉（21+60-55+1=２７日），其の黨を帥いて肅章門（宮の西門）を襲う。**長孫覽**は懼き，奔りて**帝**の所に詣る。**尉遲運**は偶々門中に在り，**直**の兵は奄至し，手自ら門を闔じる。**直**の黨は**運**と門を爭い，**運**は指を斫傷し，僅に而して閉じるを得たり。**直**は久しく入るを得ず，火を縱ちて門を焚く。**運**は火盡き，**直**の黨が進むを得るを恐れ，宮中の材木及び床榻を取り以て火を益し，膏油を之に灌ぎ，火は轉た熾んなり。之久しく，**直**は進むを得ず，乃た退く。**運**は留守の兵を帥い，其の退くに因り而して之を擊ち，**直**は大敗し，百餘騎を帥いて荊州（梁への逃亡を謀る）に奔る。戊子（24+60-55+1=３０日），**帝**は長安に還る。**八月**，辛卯（27-25+1=３日），**直**を擒とし，廢して庶人と為し，別宮に囚え，尋いで之を殺す。**尉遲運**を以て大將軍と為し，賜賚すること甚だ厚し。

●丙申（32-25+1=８日），**周主**は復た雲陽に如く。

北齊癸丑（49-25+1=２５日），**齊主**は晉陽に如く。甲辰（40-25+1=１６日），齊は**高勱**を以て尚書右僕射と為す。

●**九月**，庚申（16+60-54+1=２３日），**周主**は同州に如く。

●■**冬，十月**，丙申（32-24+1=９日），周は御正の弘農の**楊尚希**、禮部の**盧愷**を遣わして來聘せしむ。**愷**は，**柔**（魏に事えて中書監）之子也。

●甲寅（50-24+1=２７日），**周主**は蒲州に如く。丙辰（52-24+1=２９日），同州に如く。**十一月**，甲戌（10+60-53+1=１８日），長安に還る。

■**十二月**，戊戌（46-23+1=２４日），吏部尚書の**王瑒**を以て右僕射と為し，度支尚書の**孔奐**を吏部尚書と為す。**瑒**は，**沖**之子也。

■時に新たに淮、泗を復し，攻戰（其の功を敍す）、降附（其の賞を敍す），功賞は紛紜（物事の入り乱れる）たり。**奐**

は識鑒精敏なりて，請托を受けず，事は凝滞無し，人は皆な悦んで服す。湘州刺史の始興王の**叔陵**は，屢々有司に諷して，三公と為るを求める。**奐**は曰く、(10-107p)
「衮章之職（三公）は，本は徳を以て挙げ，未だ必ずしも皇枝ならず。」
因りて以て**帝**に白し，**帝**は曰く、
「始興は那(なん)ぞ忽ち公を望まん！且つ**朕**の兒（世祖の子は當に先ず公と為るべし）は公と為るは，須く鄱陽王の後（后×）に在るべし。」
奐は曰く、
「臣之見る所は，亦た聖旨の如し。」
北齊［南陽王綽のサソリ遊びを帝は喜ぶ］齊の定州（中山に治す）刺史の南陽王の**綽**は，喜びて殘虐を為し，嘗て出でて行き，婦人が兒を抱くを見，奪いて以て狗を飼う。婦人は號哭し，**綽**は怒り，兒の血を以て婦人に塗り，狗を縦ちて之を食わ使む。常に云う、
「我は**文宣伯**之人と為りを學ぶ。」
齊主は之を聞き，鎖して行在に詣ら使め，至り而して之を宥す。問う、
「州に在りて何事か最も樂しきや？」
對えて曰く、
「多く蠍（さそり）を器に聚め，狙(さる)を其の中に置き，之を觀るは極樂なり。」
帝は即ち命じて夜蠍一鬥を索めしむ，曉ける比おい，三二升を得，浴斛（湯船）に置き，使人をして裸にして斛中に臥せ使め，號叫宛轉（号叫し転び回る）す。**帝**は**綽**と臨み觀，喜噱(きぎゃく)（喜び笑う）して已まず。因りて**綽**を讓めて曰く、
「此くの如き樂しみ事，何ぞ早く驛を馳せて奏聞せざるや！」
是に由りて寵有り，大將軍に拜し，朝夕同じく戲れる。**韓長鸞**は之を疾み，是の歳，出でて齊州刺史と為る。將に發せんとし，人をして其の反を誣告せ使め，奏して云う、
「此れ國法を犯す，赦す可からず！」
帝は明誅するに忍びず，寵胡の**何猥薩**をして之と手搏せ使め，扼し而して之を殺す。

令和 5 年 7 月 26 日　　翻訳開始　　11998 文字
令和 5 年 8 月 11 日　　翻訳終了　　27417 文字